提出日：平成22年2月10日

第 13 回 情報リテラシーゼミナール
外部講師によるゼミ実施報告書

鈴木　大輔（東北大学大学院情報科学研究科　教育研究支援者）

場所
情報科学研究科棟 5 階 512
日時
2009 年 10 月 22 日（木）16 時～
講師および演題
後藤 健 （東北放送 株式会社）
参加者
本プログラム担当教員、本プログラム履修生
概要および成果

概要

東北放送株式会社について

東北放送株式会社の概要，組織について説明があったあと，ニュース報道の仕事について簡単な説明があった。ニュース報道の役割として，「県民の知る権利に応える」，「事実を客観的に伝える」，「社会正義の実現」，「権力の監視」，「倫理感をもった報道」，「複眼的な見方で報道を行う」などが挙げられた。また，ニュース報道に関する基本的な構成について紹介があり，ニュースを見るときのポイント（着眼点）について紹介された。基本的な構成として，5W1H に基づき，重要なニュースから報道されること，リード（顔）と本記（VTR）がセットになっていること，また着眼点として，他社のニュースとの比較することで会社の特色やどのような報道に重点を置いているのかがわかる例などが紹介された。

職種

ニュースがテレビで放映されるまでの取材の様子，デスク，記者の違いについて紹介があった。

1）デスク

ニュース報道の責任者。放送するニュースを決定したり，記者が書いた原稿を放送用に校正する職種。TBS と交渉を行うこともある。

2）記者

取材，原稿の執筆，編集，中継，フロアディレクター，ニュースの運行などを担当する。

報道現場の抱える問題点

その後，報道現場の抱える問題点，広告費の減少に関する話が行われた。

問題点の一例として，経営効率化に伴う人員削減によって，外部スタッフや派遣社員，契約社員によって撮影や編集が行われることが多くなり，それらの技術を習得しないまま新しいスタッフに替わるため，技術ノウハウが継承されにくい点などが挙げられた。

広告費の減少については，いかにして広告収入を確保するのかという苦労話を聞くことができたほか，今後はインターネットを活用した広告収入が大きなウエイトを占めることが予想されるため，メルマガ配信，有料サイトの開設，ネットと動画配信などが積極的に行われている話があった。

メディアリテラシー

報道現場におけるメディアリテラシーとして，以下が挙げられた。

【受け手】

- 同じ映像・情報でも受け取る側は，人によって見方，感じ方が異なる
- 偏った情報をそのまま鵜呑みにする傾向
- 情報の影響を受けやすい

【送り手】

- 偏向報道をしないような心がけ，自己批判，自己検証
- ニュースの個性，項目の取捨選択（限られた時間，撮影したカットの取捨選択，BGM）
- 課題: 記者クラブ制度の弊害（情報の画一化，役所にとって都合のよい情報だけ）

など・・・

成果

本プログラムでは，教育現場に関わる情報リテラシーを研究対象としている学生が多く見受けられるが，報道現場で扱う“情報”の全貌や，受け手・送り手を考慮したメディアリテラシーの現状を学ぶことができ，有効な資料となった。